

令和6年度下京区地域保健推進協議会 摘録

日 時 令和6年10月29日（火） 午後2時～午後3時30分

場 所 下京区役所 2階 多目的ホール

出席者 委 員 8名

事務局 9名

傍聴者 0名

開会挨拶 中西 下京区役所保健福祉センター長 挨拶

- 事務局から本日の出席人数について報告し、出席人数が過半数を超えており、会議が成立していることを確認

1 部会長及び副部会長の選出について

互選の結果、部会長に下京東部医師会会長の前田委員、副部会長には下京保健協議会連合会の多田委員が選出された。

2 報告事項

(1) 令和5年度事業報告について

(ア) 令和5年度下京区役所保健福祉センター事業実績報告

(イ) 令和5年度京都市保健所実施事業（下京区分）事業実績報告

⇒ 事務局 荒賀健康長寿推進担当課長、廣野障害保健福祉課長、坂下子どもはぐくみ課長から資料説明（資料1-1、2）

参考 令和6年度京都市保健所運営方針

⇒ 事務局 桂川健康長寿推進課長から資料説明（資料2）

(2) 令和6年度健康づくり基本方針について

⇒ 事務局 荒賀健康長寿推進担当課長から資料説明（資料3）

<質疑応答>

○委員：各イベントの参加数につき、ばらつきがあるが、目標参加数を設定し、達成できなかった等のデータはあるか。また、下京区は外国人住民の方が増えていると思うが、参加はあるか。また、言語支援はあるか。

○事務局：教室によって、さまざまだが、平日の日中に行われるので、定員を超えての参加には至っていない。外国人住民の方の参加はあまりない状況である。

○事務局：子どもの支援に関しては外国人住民の方がたしかに増えており、行政通訳、タブ

レットによる翻訳機能を活用している。プレパパ、ママ教室は夫婦そろっての参加も多く、数も増えてきている。内容も保育所への入所方法など、工夫している。

○事務局：目標数の設定に関しては、会場の都合等で決めている要素が大きく、区民のどの部分の方に受けていただきたいという細かい設定はできていないのが現状である。たとえば母子保健の分野でいえば、母子手帳交付時からつながりがあるので、対象者を把握しやすいが、健康づくりのセミナーは平日日中の開催となると、参加者は高齢の方が多くなる。働き盛りの世代の方に、どうやって健康づくりの意識を高めていただくか、大きな課題となっているため、御意見をいただきたい。

○委員：外国人住民の方向けのリーフレット作成や、働く世代にはいつでも見られるようホームページやSNS等、随時更新し見やすく工夫する等が有効であると思う。

○委員：ホームページへのリンク先を記すような取組は有効であると思う。

○委員：父親の育児休業取得の促進により、夫婦そろっての教室の参加が増えた。夫が食事の準備ができると母親の産後うつ発症が少ない印象がある。自身は訪問活動をしているが、外国人住民の方に関しては、日本語が話せる友人と一緒に聞いてもらう等工夫している。多言語のリーフレットのみでは生の情報が伝わりにくい。また、外国人住民の方は母国の文化や風習があるため、尊重しつつ話を進めるようにしている。

精神保健福祉相談件数とあるが、専門の心理士が常駐しているのか。

○事務局：京都市の場合は指定のカリキュラムを受けた保健師が、精神保健福祉相談員として各区1～2名配置されている。リスクの高いケースは相談員を中心に対応している。

3 意見交換

⇒ 参加委員より、意見交換。

○本日は御意見が活発に出て、大変充実した会であった。

○若い世代に対しての予防医学は非常に大切に、健康寿命を延ばすため、さまざまな取組がなされることがわかり、大変勉強になった。自身の周りの高齢者は非常に元気で自立心がある。高齢者はお互いに声をかけ、誘い合って行事に参加されている。市民しんぶん区版は皆目を通しており、わかりやすい。

○京都府看護協会で下京区、南区にわたり活動している。健康まつりにも参加しており、何かあれば協力させていただける。

○男性で特に高齢の方にとっては、地域の行事に参加しにくいという話をよく聞く。往診に行っていると、どうしても引きこもりがちで、患者さんと介護をしている人の間に入り、話を聞くと、介護されている方の肩の力が抜けることもある。どうしても区役所等へ

出向いて参加、という状況があるとは思いますが、訪問時に案内する等すれば参加しやすくなるのではないかと。

- 明治安田生命との取組はよいと思った。若い世代が教室等に参加しにくい事情はあると思うが、自身が従事している1歳半健診でも夫婦で来られ、熱心に話を聞かれることが増えていると思う。外国人住民の方というところ、ZOOMで健診をしたことがあるが、技術が進んでいるので、こちらも勉強していかないといけないと感じている。
- マンションが増えてきたと感じている。町内に知っている人が減り、子どもが減っているという印象がある。社会的孤立が問題となっているが、在宅医療において、相談相手がなく、薬の量を勝手に調整してしまう場合があり、相談相手がいれば薬を活用できるのにと問題は地域で感じている。若い世代のオーバードーズも問題となっている。何か、助けになる活動ができればと思う。また、男の料理教室があればいいと感じた。
- 先ほども高血圧予防等の料理教室の話題があったが、実際に調理をするとモチベーションも高まり、健康増進にもつながるので、来年度に向けて検討いただきたい。
- 今の子育て世代の父親はよく育児に参加されているという印象を持っている。京都府助産師会では、開業助産師のうち、出張訪問型もあり、思春期のスペシャリストもいるので、ぜひ病院の方にもお知りおきいただきたい。
- 防災について、マンション等の集合住宅は小さなコミュニティ内で助け合わなければいけない。停電等の有事のときには、どうなるんだろうと不安を感じる時がある。
- 防災については、本会とは別に検討しており、心配事も多いので、頑張って取り組んでいるところである。